大自然満喫紀行

～奇蹟輝石巡り軌跡～

いざ行かん。　輝石と奇跡の洞(ほら)、カルストの地へ――

旅の始まりは、いつだって他愛のない会話。

ゴールデンウィークなんて、どこに行っても人多いよね。
でも待って。よーく考えてみて。フラワーフェスティバルより人が多いとこなんて、博多どんたくくらいしかないよ？
そうか。つまり、どこに行っても、博多じゃなきゃフラワーフェスティバルより人は少ないんだ！
よし、じゃあどっかいってみるか！

――目の前に半端ない比較対象があったもので（笑）

どこがいいだろうねぇ。
そういえば、『西方面』ってあんまり開拓してないよねぇ。
山口？　秋吉台？
ああ。昔行ったことある。でも小さかったからなぁ。もう一回行くのもいいかもね。
じゃあ上？　下？
それは調べてみようよ。

――全ては「なんとなく」。

いいんですよ。秋吉台っていう指針さえ決まってれば！！
かくして、この旅のメインは『洞窟探検』に決まったのであります。

今回は珍しく、下調べから入りました。
なにしろ、洞窟はみっつあるのです！　こればっかりは決めて行かなければ…！
もぞもぞ調べた結果、一番大きくて見応えあるであろう『秋芳洞』に決定★

これだけ決まってれば十分さ！

去る２００８年5月5日。顔ぶれは前回と同じ、運転手@執事リチャード（以下：リ）　と、やっぱり此度も姫待遇？@管理人ころうつかさ（以下：つ）　にて、放浪記第４弾は最大級の失念と共に幕を開けたのであります――。

最大級の失念。それは――

岩国基地解放

5月5日の恒例行事は、周辺住民には周知のこと。この日、岩国周辺は涙誘う事態（大渋滞）が毎年のように発生し、知っている人間なら避けて通るのが世の常である年に一度のその日に…。

向かうんだぞ。通るんだぞ。どうするんだっ！？

お天気があまりよくなさそうなことより、ちょっと寒そうなことより大変なことだよ。
しかも前夜にこの事実にようやく気付き（汗）、迂回対策を計画しつつ、当日朝。
優雅なはずのお迎え待ち時間は、ずっとパソコンの渋滞情報チェックです。
魔の国道2号をいかに回避し、かつ効率よく移動するにはどこを通ればよいか？！　と脳内はフル回転。
遠回り迂回コース中国道か、裏道併用の最短コース山陽道か。

つ「とりあえずね、ＰＣの渋滞情報見る限り、まだ山陽道でも大丈夫そうよ」

出発の午前9時半過ぎ、英断？を下した我らのとった道は、山陽道。
無難なところまで裏道使ってから、ドキドキのゴゥトゥリッチウェイです。

リ「おお。そういや、宮島ＳＡって、鳥居があるんよね」
つ「みたいんなら寄ってもいいよー？　…っけど、もう過ぎてる気が…」

高速乗ってすぐの会話。
ええ。残念ですが、宮島ＳＡは乗ったICよりも手前でした！（笑）

そんなわけで、ずんずん進みます。
鬼門の岩国IC付近もすんなり通過！（安堵）
しかし、案内や渋滞予想喚起の看板等が出ており、帰りは絶対通らんほうがいいな・・・　と互いに心に決め、ずんずん夏みかんの国（山口県）を快走することしばし。

時刻にして午前11時過ぎ、下松（くだまつ）ＳＡにてトイレ＆お茶休憩。高速道路の地図もゲットして、いつのまに下松ＳＡはこんなにきれいになったのだ？　と言いながら、再び出発――。
そう。
これはすでに、**目的地到着前の脱線**のはじまりだったのです…！

再び車を走らせることしばし。
次のＳＡが見えてきました。
その名は佐渡川（さばがわ）。

つ「ここってファミマ入っとんじゃー」
リ「寄ってみる？」
つ「ご自由にー？」

…寄っちゃったw

思ったより小さな建物。
素通りしかけたのですが、結局店内に突撃。
目にとまったのは、ＣＡＲＰグッズ。

つ「こんなとこで売っとんじゃー！」

ミッキー君（犬）がかわいかったのだよ。

リ「だめじゃ。これ、買うわ…！　どーしても○○さんに似とる！　お土産にする…w」

リチャードはカープ坊やお買い上げ（笑）

他にもあるある。
なぜかディズニーグッズ（スティッチ）。しかもご当地仕様。
そしておなじみ大量のご当地仕様キティちゃん。
広島と山口が混じってるのは分かるとして、島根や鳥取や、わりかし広範囲のキティちゃんがズラー！！

つ「これかわえー。これかわゆーねーw」（訳注：これかわいいね。これはかわいくないね）
リ「こんなんもあるよ」
つ「そういえば、前に以介さんにお土産でもらったのはかわいかったわー♪」

さらになぜか謎の広島戦隊お菓子を発見！
思わず買ってしまおうかと悩んでしまうほど笑ったwww
イエローはお好み焼きとか敵がカキラとか、細かいんだ。笑う！　**ＳＡおもしろいっ！！**

アホみたいに長い間見て遊んでました（笑）
やばいよ。目的がＳＡめぐりになり始めたよッ？！（笑）

ねくすとＳＡ。美東（みとう）。

リ「ここでお昼にしますか」
つ「うん、ちょうどいいしね」

寄りましたw
売店のたぐいを全部みてまわって、一番おいしそうだったのが~~『厳選いちごフローズンソフト』~~『ごぼ天うどん』。
食券機でごぼ天うどんの食券を買って…

つ「リチャードは何にするん？」
リ「ん？　それはねぇ――」

つ「おんなじかよーーーーー！ΣΣΣ(￣□￣;)」

リ「や、だっておいしそうじゃん。ごぼ天好きじゃし」
つ「うん。そうだけど。たしかにそうだけどぉー！」

なんか、おんなじもの食べるのってもったいない気がする私なのです…。
運良くサクッと席も取れて、待つことしばし。
出てきたうどんは、おいしそうなのだが…　器が…　きたな…（汗）
その一点さえのぞけば、ほんとに。すごくおいしいうどんでした。おつゆもおいしかったのだー**

さあ。となると、心残りは『厳選いちごフローズンソフト』！
うどんであったまった直後だろうが、雨が降りそうだろうが寒かろうが、食べずに出発しては後悔するに違いない！！

嗚呼。買ってよかった。。。食べてよかった。。。
めっちゃおいしい（きらきら**）

降り出した雨も気にならぬほど、美味美味*

つ「そういえば、このへんの高速のキロポストって、干支が描いてあるんよー。あ、ほらほらあれ！」

はい。目的地着く前に、高速だけで楽しんでいる幸せな子ですw
カメラのメモリを温存していたため、ここまでこんだけ楽しんでおきながら、写真の一枚もありません（チーーーーン）

高速を降りて。まだ地元のラジオが聞こえてることに二人して感動（笑）
しかし、試合開始早々Ｃさんがよろしくないかんじだったのでラジオとはお別れ。
反対に空は、いいかんじに晴れてきました！　雨の予報フッ飛ばしましたッ！　さすが太陽とオトモダチのリチャードですね？

つ「ああ。たいようがぼくをいじめるっ…」

眩しさに目を細めながら、午後2時ごろ。ようやく目的地に到着であります！

記憶にはない商店街をぬけると、
そこは、懐かしさを感じさせる木々の間を、小川のせせらぎをききながら通り抜ける道。

大木のそびえるちょっと湿ったかんじの森にただならぬ執着を持っている私には、たまらない空間です。
いや、この木々がもっと樹齢を重ねていれば…！

そんな関係ない事を考えながら進むと、目の前に大きな洞が見えてきました…！

つ「あ！　これ！　これだ！　来た！　来たことある！　見覚えある！」

幼い頃、家族で二回ほど訪れたと記憶している場所。
けれど、幼すぎてその全てを憶えてなどいないのが現実。
そんな中で記憶と合致する光景を目にしたとき、それはとっても嬉しいのです。

つ「水の深い所がこんな青いのとか緑だったりするのって、たしか空や葉っぱの緑を映して、その色をしてるんですよねー*」
リ「うん、そうそう」
つ「きれいですねぇー*　……うりゃっ！」
リ「――！（汗」

つ「やーい！　いまびびったろっ。こわかっただろっ！www」
リ「――っこのやろー！（怒）」

解説しよう。
執事殿をつき落とす真似をしてみたのだよ。
こゆとこってやりたくなりますよねぇ？（きらきら**）
いやぁー。私は嬉しいですよ♪　だって、**大・成・功★**

さ、気を取りなおして洞窟探検の始まりですよー！

- 長淵 -

お天気の良くなった外でしたが、冷たい風が吹いており、なんとこの洞窟内の方があたたかいという状況！（苦笑）

コンクリートで歩道の整備された洞内。
そのコンクリートには何だかよく分からない穴が無数。

ひとたび歩道を踏み外すと、否、歩道の上でも、気を付けなければ滑ってしまいそうなつるつる具合。

明るい所から急に暗いところなので、目が慣れるまではよく見えない。

人の流れに沿って、あるいは逆らって、ずんずんもぐって行くのであります。

- 百枚皿 -

長渕、青天井、素通りの有料『探検コース』、そして。

つ「あ、みおぼえあるある。百枚皿！」

有名ですね。

続いてちりめん岩、洞内富士、広庭。

ここで音声ガイドにしたがって淵の方を見ると、『昔の川底』がラインになって壁に刻まれているのを見ることができました。
そこから現在の川底って…。
どんだけけずられてんだ！
しかも、途方もない時間かかって…！

すごいなぁ*

カボチャ岩、まつたけ、すぼ柿。

これらは通路そばで間近に見れます。
カボチャ岩は笑いますw
何を隠そう、ドあたまにいるおばけのよーなアレが、カボチャ岩ですw

- まつたけ -

百枚皿とよく似た、けれど違う名前の千町田（ちまちだ）。

これを過ぎると、傾斜はあきらかな登りに変わります。

土砂崩れのような千畳敷、傘、大黒柱と続き、頭上注意の看板をやりすごすと、のぞきこまなければ見えない穴の奥に観音様。

――と、本当に突然、記憶がまたよみがえりました。

つ「そうだ、昔、ドラえもんで秋吉台の番組があったんだ！」

家族でココに来たのは、それをみたからだったんだ　と。

- 千町田 -

- 黄金柱 -

さあそして、やってまいりました『黄金柱』！

目玉ですね。これも有名ですね。

リ「ほぉー。こりゃあすごいわ…」

白熱電球の明りに映し出された、巨大な柱。
けれどそれは、きらきらと輝いて。
白と金に輝くそれは、きっと写真では感動半減です。
どれもそうですが、特にコレは！
本物の凄さ･美しさは写真では伝えられません…！

コウモリの棲む天井、大仏…と通りすぎ、猿すべり。

リ「んー。あの看板がなかったら最高なんじゃけどなぁー…」

写真ではそれこそ見苦しいのでカットしたんですが、実際には『進入禁止』の看板が…。た、たしかに、思わず入りたくなる気持ちも分かるけど…！
でもやっぱり写真撮るならあってほしくはないですねー。
その場所につけた名前の看板も、ちょっと考えて欲しいなぁー…
て思う箇所が実は多々ありました。

- 猿すべり -

ここで一旦洞窟はオワリ。この先は『黒谷支道』。
洞と洞をつなぐ人工トンネルを抜けます。

支道に入るとすぐ迎えてくれるのが岩窟王。

氷柱のように下がった鍾乳石からぽたりぽたりと落ちたしずくが、
気の遠くなるような時間をかけて地面から生える氷柱のよーな岩――岩窟王
をかたちづくってゆきます。

- 岩窟王 -

くらげの滝のぼり、龍の抜け道、マリア
様、無名観音。

リ「龍の抜け道かー。かっこえーなー！」

支道はせまい洞が続きます。
それがちょっとどーんどひらけたところで
五月雨御殿。

つ「うわー。ほんまにばらばら降りよるっ
(汗) 屋根が要るわけだ;」

これまでも、まばらに水滴爆弾ありました
けど、その比じゃないです。
まさに五月雨御殿！

- くらげの滝のぼり -

支道の最後は、くっつきそうでくっついてない岩。

つ「ETじゃww」
リ「ETじゃww」

これがくっつくまでにはあと数センチ。
でもそのたった数センチが、百年以上かかるんですって。

洞内で撮った写真の中では、この一枚が一番綺麗でした*
そもそもライティング自体が幻想的で綺麗だったんですけどね！

このまま洞窟を出て、地上から帰る選択肢もありましたが、そんなもったいない！
というわけで、来た道を引き返します。
見る方向が違うだけで、違った雰囲気に見えたり、見落としていた名前のついた場所もあったりして、これがなかなかおもしろい。

…おもしろいのですが――！

いかんせん既に一度は見た場所がほとんど。
話題は逸れます（笑）

つ「女の子がさ、男モノの上着きて、手が出んとか可愛いよねー*　萌えるよねー！！！（きらきら**）」
リ「おお、いいねぇー♪」
つ「さらにさ、男モノだったらすそも長いじゃん？　そこからのぞく脚も、エロスで萌えるよねー！！！（きらきら**）」
リ「ええねええね～。さいこー♪」

ばかだなぁー（笑）

こちら（→）
は、支道の最後にフェンスの向こうに隠されて？あった、名もなき鍾乳石。
きれいなんだからよく見えるようにしてくれればいいのに…
と思いながらひっそり撮影。（ほとんどのお客さんが気付いていない）

さて。千畳敷まで戻ってまいりました。

つ「ＲＰＧのキャラとかほんますごいわー。尊敬するよ…」
リ「たしかに…　人の手が入っとってこれじゃろー？」
つ「うん。こんな暗くて足場の悪い所で、わんさかモンスターと闘うとか、ほんますごいよ。――ああいう崖の下じゃろ？　隠し通路の先の宝箱とか。誰がどーやって何の目的で置いたん？」

つ「……つきおとしてあげようか？」
リ「やめれっ！」

さくさく戻りながら、やっと気付いた事もあります。

つ「あ、この穴（歩道の謎の穴）って、上から水滴が落ちよるとこなんじゃ！」
リ「はぁ！　なるほどね！」

歩道のそこここにカニの巣のような穴があいていたのはそれは、上に氷柱鍾乳石があって、ぽたぽたちまちまと穴をあけているのが正体でした。観光用に整備されてからの間でも、このくらいの穴にはなるんだね。

事件は更に続きます。千町田にて。

リ「なにしよるん？」
つ「いや、エビみえんかなーと思って…」

目のないエビが棲んでるんですよ。見えないかなーと思って私が一人しゃがみこんでいると――

「みえないとおもいますよ」

はたときこえた第三者の声。
どこぞの観光客がかわいそうなオトナに声掛けてくれたのかと思いきや…！

「「スタッフー！！！！ΣΣΣ(￣□￣;)」」

つ「い、いくらなんでもそれなはいよっ！　あんな冷たい言葉…！」
リ「しかも、1センチくらいのエビが見えるわけないですよって言いよったよ？」
つ「ひ、ひどーーー！！！（ショック！！）」
リ「…たしかに、あれはちょっと…（苦笑）　観光客じゃなくてスタッフなんじゃもん。もうちょっと言い方があるじゃろーに…」

スタスタと去ってゆくスタッフの背中がとても冷たく、空恐ろしく見えました…。

出口まで戻り、一度はそのまま出かけたのですが、せっかくなので探検コースににも突撃かけることにしました。
暗がりでお金を取り出して渡し、懐中電灯を一本もらって出発です。
打ち付けのはしごをのぼり、岩をよじ登り、まさしく探検コース！
懐中電灯で片手がふさがるので、余計に登りづらいッ！！（汗）
二人で一本なので、先に一人登っては振り返って足元を照らしてあげながら登り――

つ（あれ？　なんだこの白い貼り紙？　うらがわ？　まあいいや。しっかしえらい険しいなぁー！　そして暗い！！）

違和感は無視。とにかく進む！

つ「あれ…？」
リ「行き止まり？」

つき進んだ我らの前には、岩と、手すりの壁。どっちを向いても同じ状況。やはり背中を見せ続ける注意書きらしい貼り紙…。

つ「もしかして…」
リ「…道逸れた？」

リアル探検しちまったーーーーーー！！！！！ΣΣΣ(￣□￣;)

前後に他のお客さんがいなかったのをいいことに、そそくさと手すりを乗り越えます。正規ルートへの帰還ですw

リ「えっらい険しいと思ったんよ…」

……同感です。すんません。**私が導きました。。。**

くぐり岩、六地蔵等、このコースにも名前のついた場所がありました。
洞内を見下ろしたり、見上げたり、**正しい観光**を行いますw
手すりにしがみついて、滑って危険な下りにさしかかります。
何度も滑るしで危なくて、片手がふさがるのが難しいので、懐中電灯は執事に持たせます。
後で聞いたのですが、やはり執事も懐中電灯で片手がふさがると難しいと言っておりました。不自由は万人共通みたいですね。
自由な両手で手すりを伝いながら階段を降り、それが途切れたところで、きれいなきらきら輝く岩。

つ（うわーきれい。こんなトコ通っていいんかなぁ…）

リ「そっちじゃないって！」
つ「え？」

執事の声に振り返ると、

「こっちですよー！」

下からも案内のお姉さんの声が聞こえる…。
それは、私が向かおうとしていた方向ではない。。。

またやったーーーーーーー！！！！！ΣΣΣ(￣□￣;)

女神？の声に導かれ、無事に帰還を果たしました。
いやー。ほんまにリアルに二回も！　**大・冒・険★**しちゃいましたっ（汗）

人並み以上に探検コースを満喫し（苦笑）、往復で約2時間の洞窟探検は終了です。

リ「片道一時間…　パンフレットどおりじゃね」

商店街で夏みかんジュースを買ってのどを潤し、全国に広がるご当地まりもっこりのみやげものキーホルダーを笑い、それがキューピーにまで及んでいることに脅威を感じ（汗）、それぞれお土産を買って、秋芳洞を後にします。

そして悪いクセ発動。
車で動き始めてから次にドコに行くかを決める…;
まてまてまてーい！　執事よ！　そのまま帰ろうとするんじゃないっ！
途中、立派な木のところで停まって作戦会議です。

そのまま帰るのはもってのほか。岩国でつかまってもたまらん。
途中から地道？　それもいいけど…　特に行きたい所があるわけでもないし……

リ「萩に出て、日本海に沈む夕日をみるとか？」
つ「日本海？　こっから近いの？」
リ「うん。そんな遠くないはず」

なるほど。確かに地図を見るとそんな遠くない…！

つ「うん！　それがいい！　太陽が海に沈むとか、さりげなく見たことないし！！」

目的地が決定しました。
転進、北へ向かいます。

つ「どうせならカルストロード通っていこう*　岩がね、すごいんよー。なんか、ヒツジの群みたいにもこもこあるけん**」

カルストロードへ通じる道までナビが終われば、私は観光係です。
ぐねぐねした上り坂のそこここにみえる岩を指差しては、一人楽しむ（笑）
そしてその山道を登りきり――

リ「おぅわ！！！　すごー！！！」
つ「おおおー！　ぜっけーかなー*」

広がる台地一面に、ヒツジの群のような石灰石群。
晴れ渡った青空と、いいぐあいに傾いた西日。
しかも、雨上がりなので、空気中の塵もない、澄んだ視界。

リ「あー！　これ！　みたことあるー！　パンフレットとかにあったー！　写真で見たまんまー！」

初めての本物に大感動の執事殿です。

ひんやりと気持ちのいい風に吹かれながら堪能することしばし。
着水に遅れてはいけないので！
この景色が見えてる間はゆっくりと車を走らせながら、移動再開です。

私たちのとった、南→北ルートでは、カルスト台地の前半は目の高さにみることができます。
遠くに展望台もみえ、柵で囲ってあるとはいえ、中に入ることも可能だと知れます。
遊歩道らしきものもみえます。

そして後半は。
どちらかというと、谷を見下ろす形になります。

つ「さっきまであの下におったんかなぁー？」

パンフレットの地図を見る限り、この台地の下が鍾乳洞です。

つ「なんか、遺跡とか――マチュ・ピチュみたいなん見下ろしとるみたい。ほら、なんていうか、石の建造物みたいな…」
リ「ああ。うん！　なんかそれ分かる！」

見下ろす景色は、まさに空の高い所から遺跡か何かを見下ろしているような気分。

写真がないのが申し訳ないのですが…。

カルスト台地に別れを告げ、大正洞やサファリパークを尻目に、ぼくらは毛利の城下町（萩）を目指します。
知らない道ですが、ちゃんと着けるもんなんだよな！

ある場所から、突然民家の雰囲気が変わってきます。
なんていうか、屋根が凄い…！

ちまちまと飾り屋根？にしてあって、豪華な感じがするわそれに見合うおっきな家だわ、さすが城下町！
山城だった広島時代とは典雅さが違います！
街中に背の高い建物はありません。

つ「なんでじゃろ。制限とかあったんかなぁ…」
リ「単に高くする必要がなかったんじゃない？」

実際はどうなんでしょ。
気がつけば、海はもう目の前…！

つ「え！？　もう海なん？！」

予想以上に近い…！
なんかこー、日本海というと、遠いイメージのある広島っ子です…。

昔、職員旅行で連れてきてもらった窯元らしい場所を通り過ぎ、萩とはお別れ。
線路と競うように並走しながら、白波の寄せる海辺を東へ走ります。
――そう。東なんです。帰らなきゃいけないから。
けれど、日は西に沈むのです。
つまり、日没速度、倍です！

とりあえず、見慣れない水平線に感動**

瀬戸内海は、島で埋め尽くされて、繋がった対岸にもみえるのでね。新鮮！！

海と出会ったり分かれたり。
会うたびに落ちてゆく太陽。途中、よさそうと思われる場所で停まったりもしたのですが、まだ早かったりポジションがよくなかったりで、結局移動を続けていると、
いよいよか！？
というところでトンネルに突入。

つ「あー！　うわー！　しずむー！　着水するー！（汗）」

案の定！
トンネルを抜けると既に、太陽は海にちゃぷんとつかっていました。

つ「あああー！　しーずーむー！　きゃー！　でもきれいー！！！（きらきら**）」
リ「ええい。もうここしかないっ！」

太陽が半分ほど沈んだ辺りでようやく車を止めることができました。

つ「わー！　しずむしずむー！！」

慌ててカメラ片手に走る私。
どうなったかって？

うふふ。

ギリギリセーフ☆　(写真でちゃんと分かるかしら…ドキドキ;)

やー*
やっぱり自然の織り成す美しさに勝てるものはないですね。
欲を言えば、もう少しゆっくりしっかり見たくはありましたが…。

リ「そんだけ嬉しそうにされたら、また来てもいいって思うよー (笑)」

ほんまかー！ (きらきら**)

つ「じゃあぜひ！！ (きらきら**)」

しかし、そこまで言わしめるとは、どんだけはしゃいでたんだ？　わたし… (汗)　←なかば無自覚。

さ、目的は果たしました。あとは帰るだけですが、時間的にどこかで夕食をいただきたいかんじ。

つ「浜田まで行ったらさすがに食べるとこあるでしょー？」

夕日と (私が一方的に) 戯れているあいだに、いつのまにやら島根県突入してたのですよね。
そのままずんずん進み、あたりはだんだん暗くなり、浜田に着く頃にはもうさすがにまっくら。なんせもう午後8時ですしね。

リ「道の駅はそろそろ食べるとこおわりそうな気がする」

――と、浜田市内、市街地…。
うろうろうろ…。
とりあえず、駅辺りにも行ってみる…。

店がない・・・！

つ「ええっ？！　浜田ってこんなになんもないの？！　もっと街だと思ってたのにー！」

あるのは企業ばかり。飲食屋さんあっても、飲み屋さんだし…！
ここはそういう外食産業って不毛の地なの？！
彷徨うことおよそ30分。
ようやく一軒見つけました！

つ「もうなんでもいいよ！　食べれればっ！！」

というわけで、中華屋さんに突撃です。

私は既に、中華なら天津飯！　と決めていたので、即決です。セットのハーフラーメン付き♪　+デザートは王道に杏仁豆腐☆
執事殿はかにあんかけチャーハン。

このお店、アタリでした！

安いしおいしいし、量も丁度良い！！
どれもこれもを美味しく幸せに食しておりますと…

つ「…？　ご、ゴキブリー！？」

そう。**マジででちゃったんです。**Gさんw　もしくは太郎さんww

私が座っていた席は、仕切りに接していて、その向こうはお皿がおいてありました。
太郎さんはそこからこっちにむかってやってきたのです！

つ（おうおう。なんか、こいつ動きトロイなぁ…。ってか、かばん這うなよ私に触れるなよ机に乗るなよ食べる物に入るなよ…！）

なぜか、妙に冷静に動きを見守る私。
太郎さんは、かさかさかさと仕切りを這って下り、床へ。

つ（おうおう。よかった…って、足上げとかんと！　這われちゃたまらん！！）

いったん視界から消えた彼（彼女？）は、お店のお兄さんの紙ナプキンの一撃で、拍子抜けするほどアッサリ御用。
何の被害もなくことなきを得ました。
うん。ほんと、驚くほど冷静だった。そしてあっけなかった！（苦笑）
食べていた物に被害があったらお店に大文句ゆってやろうとは思ってましたが、それもなかったし。
むしろ、最初に大きな声出しちゃって、周りのお客さんごめんなさい？　くらいの（苦笑）

妙な体験したなー（笑）　まあ、おいしかったし、いいやんなーw

と、自分達でも驚くほどの仏の心で、お会計時、あやまるお兄さんに笑顔で

つ「おいしかったですよー*　ごちそうさまー**」

と声を掛けて帰る始末（笑）

リ「今晩あのお店バルサンたくかねw」
つ「ほうじゃね。しとかんにゃ、一匹おったらもっとおるっていうしね」

超他人事（笑）

つ「っけど、ほんまおいしかったし安かったし、また来ても良いよー♪」

あんなことあったわりに、信じられないくらいの好印象でお店をあとにしたのでありました（笑）

これでほんとにあとは帰るだけ。
浜田道を駆使して、いっきに広島目指して南下です。

つ「おー！　さすがに山奥は星が綺麗じゃ！」

あたりに何の明りもないので、車の明るさがあっても十分天の川がわかります。
ただ、移動しながらだったので見える方向が限定されてて、ようやく白鳥座が分かったよーな、でも自信がないぜってくらいしか星座はつなげませんでした。
全天見えてたら、ちゃんともう少し星座つなげるんですからねっ！
カシオペアと北斗七星から北極星見つけて、夏の三角とその星座とさそりとオリオンくらいはわかるのだっ！（それは自慢できるほどじゃないって）

まだまだ山中ながら、山っ子にしてみれば十分人里レベルまで帰ってきたあたりで。

つ「そういえば、あそこですよ。ジンギスカンキャラメル買ったのw」

この一週間前、所用で中国道をつかった際、利用した安佐（あさ）ＳＡ。
そこはちょうど『北海道フェア』のようなものをやっていて、そこでラジオでも何度か話題になっていた（またラジオかよっ！w）ジンギスカンキャラメルをね、買ったんですよ。

リ「んー。それは売っとるとこみてみたいかもw」

はい。この旅４ヵ所目のＳＡめぐり開始です（笑）

ジンギスカンキャラメルの他にも、なんだかいろいろあるんですよねー。見てるだけでも面白い。ラベンダーやら熊出没注意（コーン）やらwww

おなじみのご当地キティちゃんは、山口のＳＡと余り差のない品揃え。…ああ、そうだよ。また見てたんだよ（苦笑）

違いがあるとしたら、山口には九州方面のものがあり、広島には関西方面のものがありってとこでしょうか。

リ「あー、札束（おもちゃ）があるー。これでビンタとかされてみたいなぁw」
つ「おもちゃでもいいの？」
リ「うん」
つ「……やってあげようか？（白い目）」
リ「……いいです;」

安佐ＳＡを出た後は、まっすぐに帰宅です。延べ時間およそ１３時間、ぜーんぶ楽しく過ごさせていただきました**

本来の目的『洞窟探検』も満喫し、おまけにいい景色や夕日も見れて、ほんとに大自然満喫**

脱線ＳＡめぐりもなにげに楽しかったですよ。ＳＡごとの色があって☆
ただ、ご当地キティちゃんは、あんまり近く同士だと似てるんで、そうどこでもかしこでも見る価値はないかも。
どっか一ヵ所で見る分にはなかなかおもしろいです！

行き当たりばったりでも、その全てを楽しめるから。
ふらふら彷徨うのも楽しいんです*

ちなみに。
秋芳洞で私がお土産に選んだのがこの『ごぼうせんべい』
あれ？　それってどこかで…
と思われた方！　あなたすごい！
そう。
以前山口に旅行に行った際に出会って、めちゃめちゃ気に入ってしまった代物なのです**

これでわかったよ！
山口に行けばごぼうせんべいはあるんだねっ！
よーし♪

ほんとに、心からオススメです*　おいしいよ～～*

――と、妙な宣伝をしたところで放浪記第４弾、お開きとさせていただきますv　長らくのお付き合いありがとうございましたv
第５弾をお楽しみに～～？

そして若かれるのだ。　誘（いざな）いの道と、海に融（と）ける太陽の軌跡に。

Powered by FC2.com